

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-210	013-064	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Influence of Chronic Ethanol Consumption on the Neurological Severity in Patients With Acute Cerebral Ischemia. 慢性のエタノール摂取が急性の脳虚血患者の脳神経障害の重症度に及ぼす影響		
<b>執筆者</b>		
Ducroquet A, Leys D, Al Saabi A, Richard F, Cordonnier C, Girot M, Deplanque D, Casolla B, Allorge D, Bordet R.		
<b>掲載誌</b>		
Stroke. 2013 Aug;44(8):2324-6. doi: 10.1161/STROKEAHA.113.001355. Epub 2013 May 16.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール、虚血性脳卒中、国立衛生研究所脳卒中スケール		23686975
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 慢性および過度のエタノール消費に対する虚血性脳卒中の重症度の関連を検証した。</p> <p><b>方法：</b> 虚血性脳卒中または、一過性脳虚血発作の発症後 48 時間以内の患者を対象者とした。脳卒中の重症度は国立衛生研究所の脳卒中スケール (NIHSS) で評価し、入院時にCTもしくはMRI検査を用い、Org10172 の試験を基準に分類した。エタノールの摂取量は 1 日 4 杯、1 週間 300 g 以上を大量飲酒とし、本人の報告と生物学的検査結果に相違が確認された場合には近親者もしくは担当医に照会した。軽症脳卒中を NIHSS 0~5 点、重症脳卒中を NIHSS 6 点以上と定義した。統計処理は SPSS の 15.0 を用い、ベースラインでエタノール摂取量を含む特徴を <math>\chi^2</math> 乗検定とマンホイットニーU テストで比較した。研究は倫理員会での承認と、患者本人もしくは近親者の同意書のサインを得て実施した。</p> <p><b>結果：</b> 参加者 436 人(女性 205 名)の平均年齢は 70 歳で、60 人が大量飲酒であった。NIHSS の中央値は 6 点で、105 名が血清溶解治療を受けた。ロジスティック回帰分析により、大量飲酒と重症脳卒中(NIHSS 6 点以上)は独立して関連していた (オッズ比 2.35; 95%信頼区間 1.12-5.26; p=0.023)。</p> <p><b>結論：</b> 大量飲酒は、より症状の重い虚血性脳卒中の発症と独立して関連していた。</p>		